

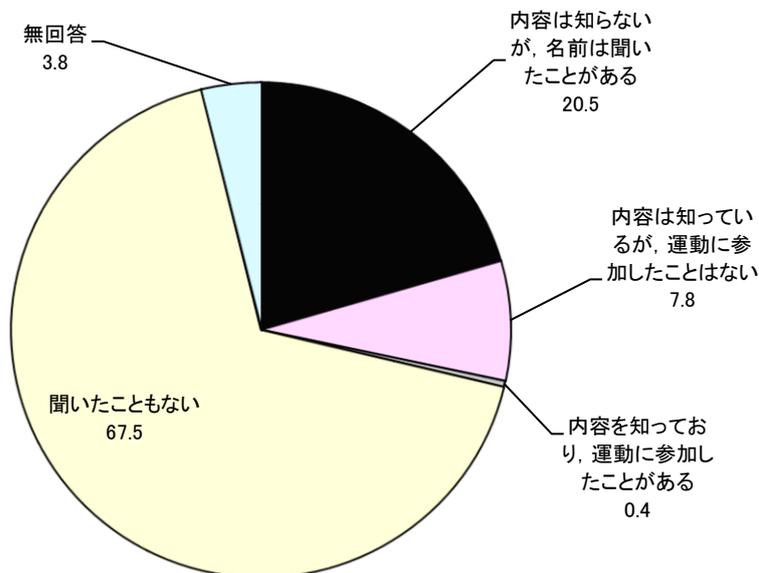
10. 障害者の差別解消に関する意識

(1) 「あいサポート運動」の取組み認知

問28 広島県では、平成23年10月から県民一人ひとりが障害の特性を知り手助けや配慮を実践する「あいサポート運動」に取り組んでいます。この取組についてご存知ですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

**「あいサポート運動」の内容認知率は約1割。
名称認知率は2割**

「あいサポート運動」の取組について「内容認知率」（「内容は知っているが、運動に参加したことはない」「内容を知っており、運動に参加したことがある」）は8.2%と1割弱、「名称認知率」（「内容は知らないが、名前は聞いたことがある」）（20.5%）は2割程度を占める。一方で「聞いたこともない」（67.5%）は6割強を占める。



(単位: %)

<属性による比較>

【生活圏別】

内容認知率は備北地方生活圏で14.8%と高く、広島地方生活圏(8.1%)、備後地方生活圏(7.6%)と比べて6.7ポイント以上高い。名称認知率も備北地方生活圏が22.6%と最も高い。

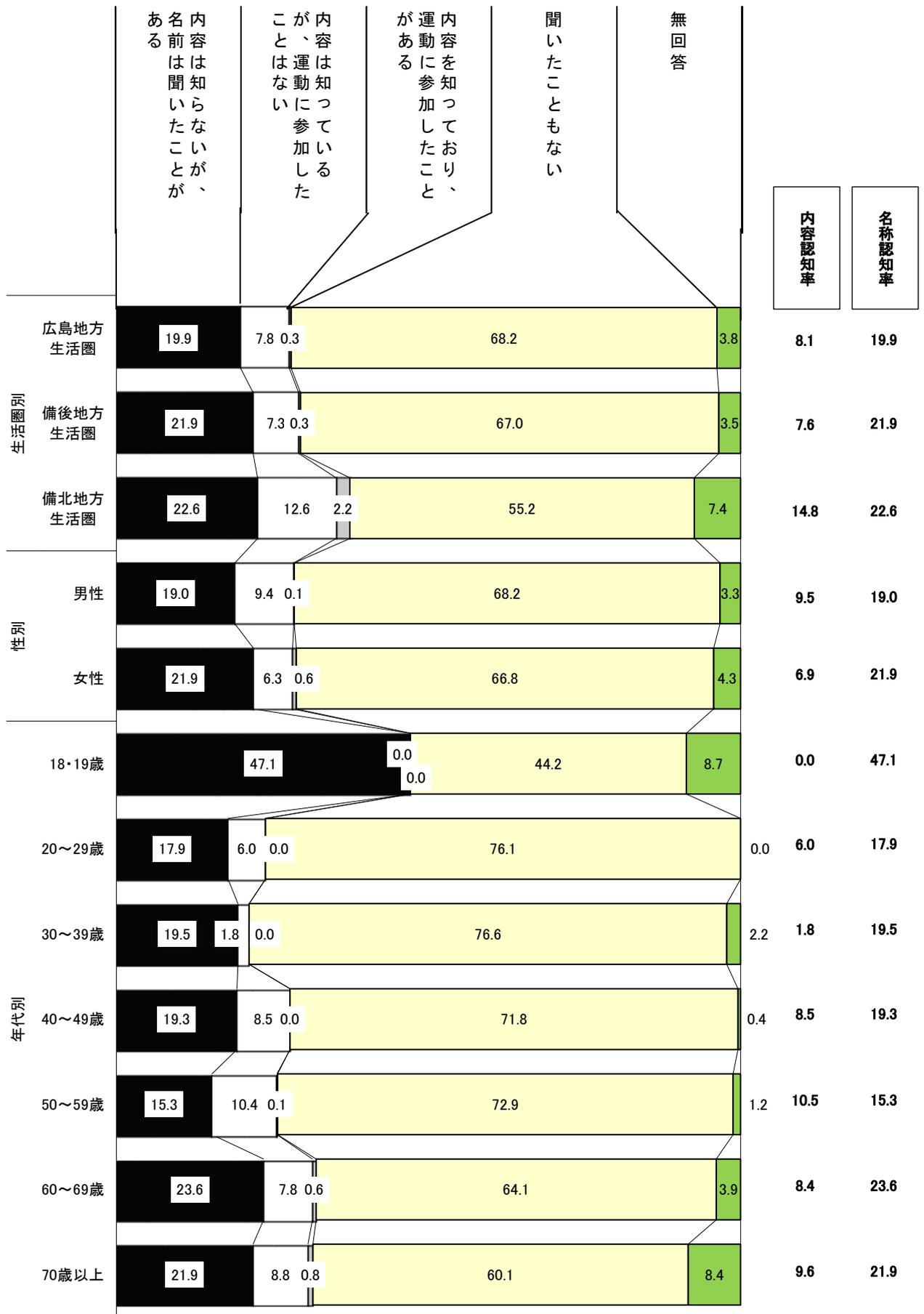
【性別】

内容認知率は男性(9.5%)が女性(6.9%)と比べて2.6ポイント高く、名称認知率は女性(21.9%)が男性(19.0%)と比べて2.9ポイント高い。

【年代別】

内容認知率は50歳代で1割程度、名称認知率は18・19歳で5割弱と他の年代と比べて高い。

「あいサポート運動」の取組み認知(生活圏, 性, 年代別)



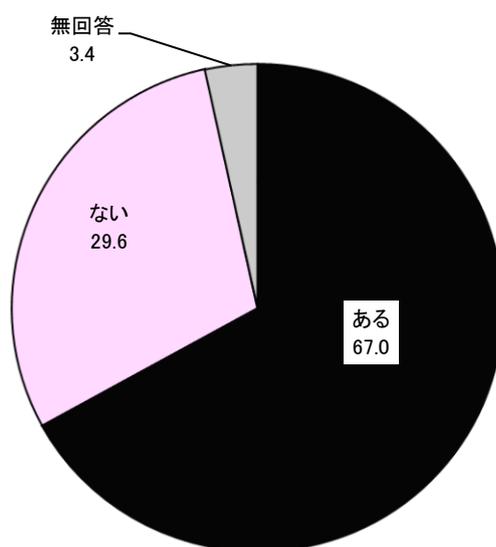
(単位: %)

(2) 障害のある人が困っている時の手助け

問29 あなたは、障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。(実際に手助けに至らなかった場合でも、声掛けなど、手助けをしようとしたケースを含みます。)

6割強が手助けをしたことがあると回答

障害のある人が困っている時の手助けをしたことがあるかについて、「ある」と回答した割合が67.0%と6割を超え、「ない」が29.6%と3割程度である。



(単位: %)

<属性による比較>

【生活圏別】

すべての生活圏で「手助けをしたことがある」が6割を超えており、その中でも広島地方生活圏が67.9%と他の生活圏と比べて高い。

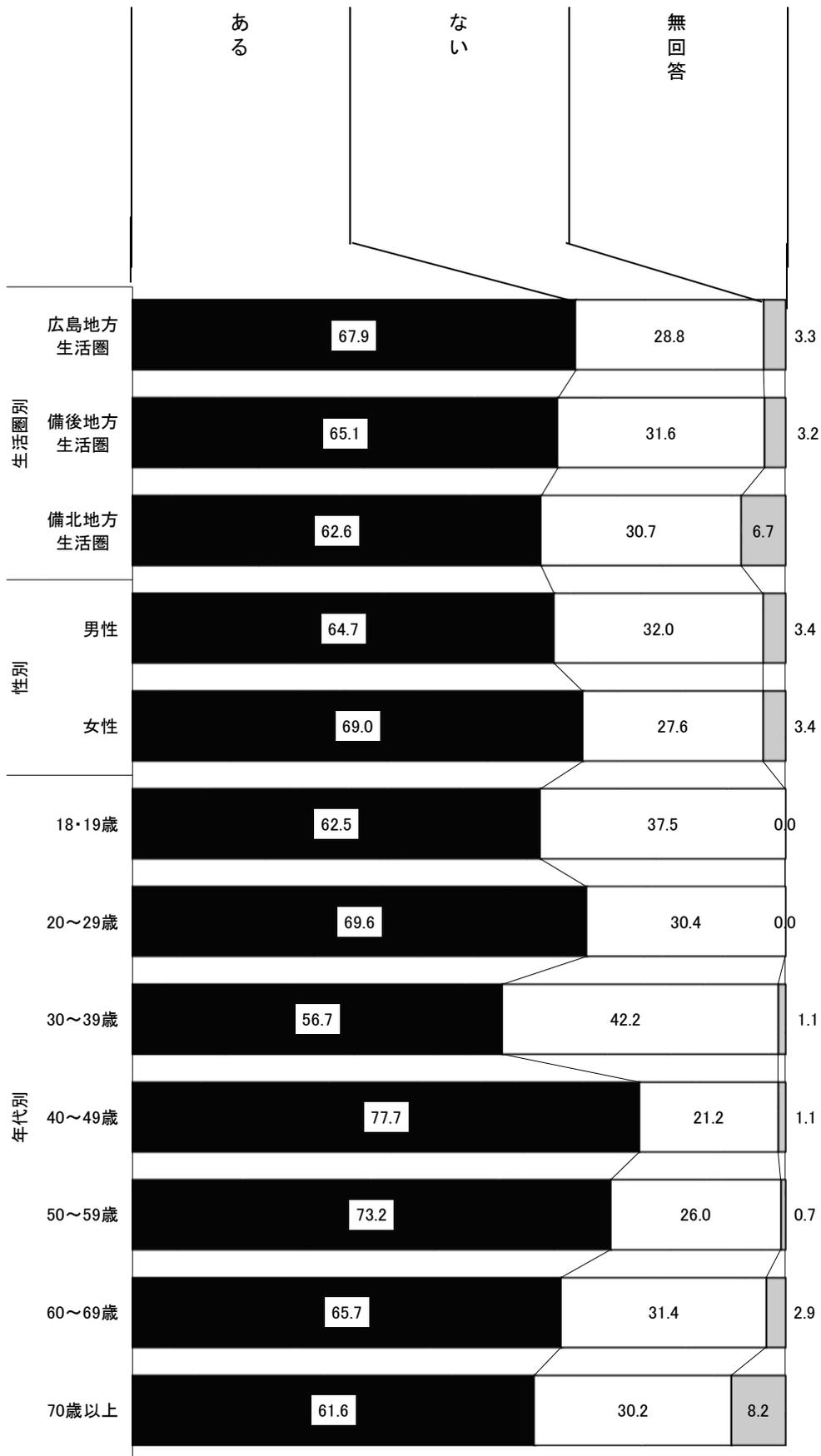
【性別】

女性は「手助けをしたことがある」人が69.0%と男性(64.7%)と比べて4.3ポイント高い。

【年代別】

40～50歳代は「手助けをしたことがある」人が7割を超えて高い。

障害のある人が困っている時の手助け(生活圏, 性, 年代別)



(単位: %)